

防衛大学校本科第18期学生及び理工学研究科第11期学生
卒業式における学校長式辞（昭和49年3月21日）

本日、防衛大学校本科第18期学生及び研究科第11期学生の卒業式を行うに当たりまして、田中内閣総理大臣^{注(1)}、前尾衆議院議長^{注(2)}、山中防衛庁長官^{注(3)}をはじめ、内外から多数の来賓並びに父兄各位の御臨席をえましては、防衛大学校にとりまして、非常な光栄であります。ここに本校教職員並びに学生一同に代り、来賓並びに父兄各位の御厚意に対し、心から御礼申し上げる次第であります。

今日、卒業の栄をにないます本科卒業生は、4月から陸・海・空各自衛隊の幹部候補生学校に進み、幹部自衛官となるための教育を受けることになっています。また研究科の卒業生は、陸・海・空各自衛隊の部隊や防衛庁の機関において、それぞれ新しい任務につくことになっております。

本科並びに研究科の卒業生諸君の門出を祝い、私はまず諸君が防衛の専門家としてのただ一筋の道に徹することを望みたいのであります。幹部自衛官は専門職の一つですが、およそすべての専門職はその養成に長年月の精進を必要とします。特に防衛の分野では、世界各国は国運を賭して、すさまじい競争を展開していますから、もし万一、諸君がこの激しい国際競争に敗れるようなことがあれば、単に諸君が個人として落伍するばかりでなく、日本国の平和と安全そのものが危険に瀕するのであります。このことは幹部自衛官が国家の平和と安全を任とする特別の専門職であることを意味します。多数の主権国家によって国際社会が構成されているかぎり、それぞれの国家が自国の領土、領海及び領空の平和と安全に責任を負うのでなければ、世界の平和を維持することはできません。この意味で、諸君はわが国の防衛ばかりでなく、国際の平和と安全に対しても、崇高なる義務を負っていることを誇りとしていただきたいのであります。

次に本科並びに研究科の卒業生諸君が、防衛の専門家としての道をひたむきに進むに



第3代学校長 猪木 正道

注(1) 田中角榮

注(2) 前尾繁三郎

注(3) 山中貞則

当り、防衛に職を奉ずるものとしての職能倫理をしっかりと身につけるよう、私は求めたいのであります。わが国の防衛力を直接間接、操作運用する立場にある自衛隊の幹部は、防衛の専門家としての高度の倫理的責任感に貫かれているのでなければ、その重大な使命を果し、国民の期待に応えることはできません。諸君が本校在学中に受けた教育は、諸君の専門家としての、また人間としての、成長の基礎となることを私は確信いたします。

本科並びに研究科の卒業生諸君が、今後不断の研鑽と錬磨とを通じて、わが精強なる自衛隊の将来を背負うことを期待して、私の式辞を終わります。